

のってみまいか、公共交通 No.8

分かりやすくして便利な公共交通を目指して

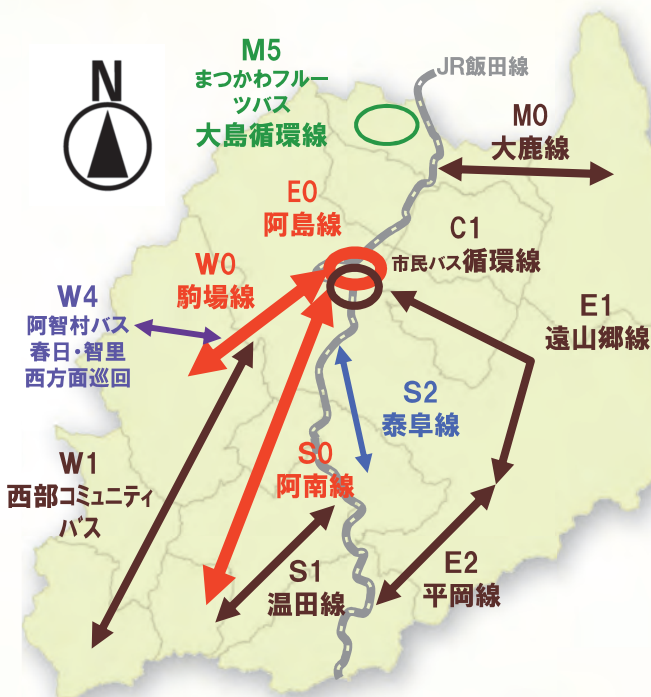


バス路線図の「モヤモヤ」を「スッキリ！」

バス路線図は難しくて目がチカチカすると思われたことはありませんか？

南信州地域では、バス路線が地域で果たす役割によって、路線を基幹・准基幹・支線に分類しています(表をご覧ください)。

この分類をもとに、このたび、バス路線網の全体像をわかりやすくし、バス路線をより身近なものに感じてもらうために、路線に色と番号を付けました(図をご覧ください)。この分類は平成28年度からバスや時刻表に反映されますが、その分類の大まかなルールをご紹介します。



番号付けのルール: 英字+数字

- ◆ 基幹路線… 東西南北(E・W・S・N)+数字
例) 阿島線は東(East)の基幹路線のためE0
- ◆ 准基幹路線… 東西南北(E・W・S・N)+数字
または運行エリアの市町村名の頭文字+数字
例) 西部コミュニティバスは駒場線(W0)と接している准基幹路線なので「W1」
- ◆ 支線… 接続する基幹・准基幹路線の頭文字
または運行市町村名の頭文字+数字
例) 大島循環線は松川町を運行しているため「M5」
※ 英字の後ろの数字は、原則として地図上で北から時計回りに番号が付けられています。

色付けのルール

基幹路線は赤、准基幹路線は茶、支線は隣り合う路線と区別しやすいように塗り分けました。

表 路線の色・番号と定義

路線名	色・番号	定義 (第2次南信州地域公共交通総合連携計画より)
阿島線	E0	基幹路線 ①飯田市と他地域を結び、かつ複数の町村を運行する基幹的な公共交通路線
駒場線	W0	
南部公共バス 阿南線	S0	
広域バス 遠山郷線	E1	准基幹路線 ①複数市町村を運行し、かつ基幹路線に接続する公共交通路線 ②他の基幹・准基幹路線と接続して、南信州地域全体からの利用が多い施設へアクセスを確保する公共交通路線
広域バス 平岡線	E2	
西部コミュニティバス	W1	
大鹿線	M0	
市民バス 循環線	C1	支線 ①基幹路線または准基幹路線に接続する地域のコミュニティバス (※支線は紙面の都合上、一部路線のみを掲載しています。)
南部公共バス 温田線	S1	
まつかわフルーツバス 大島循環線	M5	
南部公共バス 泰阜線	S2	
阿智村バス 春日・智里西方面巡回	W4	

公共交通を使った おでかけプラン 第4弾 「満蒙開拓平和記念館」

今回は、飯田駅前からバスやタクシーを乗り継いで行く、阿智村の満蒙開拓平和記念館へのおでかけプランです。歴史を学び、先人の体験を知り、平和な世の中になる前に何があったのかに向き合い、いま普通に暮らせることのありがたさと幸せをみんなで考えてみませんか？



おもな行き方

① 駒場線と阿智村巡回バスを利用

飯田駅発の広域バス駒場線に乗車

→バス停「こまんば」で阿智村「伍和・智里東方面巡回バス」に乗り換え

→バス停「満蒙開拓平和記念館」下車

※ご注意 乗りかえ可能な便は平日2本・土曜1本です。上記ダイヤは平日ダイヤです。詳しい時刻表は、南信州公共交通インフォメーション(下記)で見られます。

② 駒場線とタクシーを利用

バス停「こまんば」からタクシーで約5分(または徒歩で約15分)

※ご注意 タクシーは事前に呼び出す必要があります。

③ 高速バスとタクシーを利用

高速バス停「駒場」からタクシーで約5分(または徒歩で約20分)

※ご注意 高速バスは「阿智」に停車しない便があります。

タクシーは事前に呼び出す必要があります。



満蒙開拓平和記念館

- ◆ 開館時間
9:30 - 16:30(入館は16時まで)
- ◆ 休館日
火曜日(祝祭日の場合にはその翌日)、第2・4水曜日、年末年始等
- ◆ 入館料
一般 500円(団体400円)
小中学生300円(団体200円)
※団体20名以上
- ◆ 駐車場
大型バス3台、普通車30台

満蒙開拓平和記念館 [検索](#)



写真1 入口左手の吹き抜け

昭和初期に、飯田・下伊那地方から約8,400名の方々が満州に渡りました。この地方は、全国で最も多くの人を満州に送り出したといわれています。満蒙開拓平和記念館は、**全国唯一の満蒙開拓の歴史に特化した施設**です。映像資料、戻ってこられた方々の体験証言などの貴重な資料が展示されています。

記念館の入口左手には吹き抜けがあります。地元の木材を活用した温かみのある館内が印象的です(写真1)。

展示は、満州での開拓の歴史から始まり、続いて当時の人々の貴重な映像・写真が見られます。カメラに微笑む人々を見て、今も昔も人は変わらないことに気付かされました。

その後、開拓団住居の展示(写真2)、青少年義勇軍の展示(写真3)、敗戦後の引き揚げに関する展示、**個人の体験証言の展示**(写真4)が続きます。体験証言では、体験した人でなければ決して出てこないような、具体的で重たい言葉に圧倒されました。改めて、決して繰り返してはならない歴史があることに思いを馳せました。

セミナールーム(写真5)では個人の体験証言のビデオを見ることができます。また、**語り部定期講演が定期的に開催**されています(詳しくは記念館ホームページをご覧ください)。

Cafeラタン(写真6)では満州から引き揚げてきた方々が戦後開拓した地域で育てた果物を使ったジュースをいただくことができます。店内には、ちょっと珍しいロシアの暖房器具ペチカ(写真7)があります。



写真2 開拓団の住居をイメージ再現した展示



写真3 青少年義勇軍の展示



写真4 個人の体験証言の展示



写真5 セミナールーム



写真6 Cafe ラタン



写真7 ペチカ

参考文献：寺沢秀文 「語り継ぐ「満蒙開拓」の史実―「満蒙開拓平和記念館」の建設実現まで―」、『信濃』、信濃史学会、平成25年3月号。

おでかけは公共交通で！ 時刻表・路線の確認は、

南信州公共交通インフォメーション <http://i.mi7mi.org/>



取材：名古屋大学大学院環境学研究科 加藤研究室